



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2011
3月10日号125
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024(559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

がんの2015年問題



副会長 齋藤 康雄

「・・・年問題」と聞くと、もう10年も前のことになるが、グレゴリオ歴2000年にコンピュータがプログラム内の年数表現で誤作動を起こす可能性がある、問題になったことを思い出す。所謂、Y2K問題である。コンピュータ無しでは動かないこの世の中、不具合が発生すると社会運営が麻痺し、国際経済が不況に陥るかもしれないと大きな社会問題にもなったが、官民一体となって事前対策を講じるなどして、一部不具合はあったものの致命的なことが起きることもなく過ぎ去ったことを憶えている。

今更と言われそうであるが、2006年に厚生労働省から出された資料によると、「2015年にはがん患者が倍増し、2050年まで横ばいで推移する」という推計が出された。団塊の世代も2015年には65歳を越え、高齢者が増加してがんの罹患者数もピークになって、300万人いると言われているがん患者が、2015年には年間新規がん患者は現在の70万人から90万人になり、5年未満生存者225万人、長期生存者308万人と、540万人前後に増大し高齢化とも相まって高止まりし、2050年まで続くと予測されている。所謂、「がんの2015年問題」である。コンピュータ2000年問題は、2000年までに対策を講じ、そこを過ぎれば終息と言うことになるが、がんの2015年問題は増え続けるがん患者と、予防、治療、共存の中で向き合い続けなければならないのである。それらを踏まえ2007年4月に「がん対策基本法」が施行され、本格的ながん対策が国の施策として始まった。そこでは、医療に関わるあらゆる職種がそれぞれの分野での責務が決められ、国をあげて対策を推進していくと同時に、国民にもがん検診を受けることや生活習慣病予防などを求めている、三者が一体となって取り組むことが示されている。

放射線技師の立場で考えると、画像診断と放射線治療が主なものとしてあげられる。当然のことながら、がんの診療は画像診断なくしては不可能であり、放射線技師を欠いては成り立たない。放射線治療も、限られた設置施設ではあるが同様に重要な役割を果たしている。日本放射線技師会も、専門技師認定の制度化、資格認定、検査技能検定、読影技能検定などの臨床技術能力検定制度や、研修会や講習会を積極的にすすめ、専門的なスタッフ養成と共に、会員のスキルアップに取り組んでいるところである。がん対策は、特定の施設ばかりが努力しても、向上し解決できるものではない。地域性や施設の大小などに関係なく、どこの施設にもがん患者は来院している。年間70万人いると言われている新規のがん患者の何人かは、あなたの手によって見つけられている。見逃さないという気概を持って、最大限の診療情報を医師に提供する努力を惜しまないで取り組むことが、放射線技師の使命であると考えます。

検診や初診時に発見されなかったがんが、症状が出て再来院する頃には進行していることも希ではない。早期発見が早期治療に繋がり、生存率もきわめて高くなる。がん患者がますます増加する中で、放射線技師に課せられている期待は大きい。

第3回理事会議事録（抄）

日 時：平成23年2月18日(金)14:00～

場 所：県立医大病院放射線部コンファランス室

出席者：鈴木憲二会長、遊佐烈、斎藤康雄副会長、(理事)
佐藤靖芳、佐藤政春、白川義廣、嶋田峻二、
堀江常満、新里昌一、今野英麻呂、佐藤勝美、
渡辺和夫、菅野和之、栗田祐治、今野広一、
(監事)片倉俊彦、(事務局)伊藤、阿部

議長に遊佐副会長、議事録作成人に県南支部(菅野和之)を選出、議事に入った。

議題1 平成22年度事業進捗状況報告

支部活動報告

各支部より現在までの活動状況の報告及び今後の活動予定について報告があった。

生涯教育委員会

研究会等の会員、非会員の参加料についての差別化について正式に導入することで承認された。

県主催行事、支部行事、各研究会等の重複開催を避けるため各担当は開催時期が判明した段階で生涯教育委員長に連絡をすることを徹底する。

日放技主催の教育委員講習会に、生涯教育委員長と医大から2名参加する。

学術委員会

学術大会収支報告が提出され、承認された。

ネットワーク委員会

県技師会ホームページのサーバーを置いているOCNより新プランに移行してはどうかとの提案あり、レンタル料金も下がることから新プランに移行することで承認された。

調査委員会、精度管理委員会

21、22年度に実施した報告を会報に載せると同時にホームページ上にも公開する。

議題2 平成23年度福島県放射線技師会総会について

平成23年5月21日、22日の2日間にわたり、いわき市「新舞子ハイツ」にて開催で承認された。

特別講演、講師の決定の報告。総会に報告する現在までの実施記録等記載漏れのチェックを行った。

議題3 今後の県総会開催について

今後の総会の開催について、従来の形にとらわれず地域や情勢等を検討して、開催する事とすることで了承された。

議題4 平成22年度東北地域連絡協議会及び地域会長会議について

来年度から技術学会東北部会と東北地域技師会との合同で「東北放射線医療技術学術大会」を開催することとなった。

この「東北放射線医療技術学術大会」を開催するにあたっての、各県の新たな負担金は発生しない旨の報告。新潟県(技術学会、技師会の所属地域が違う)の取り扱いには継続して検討する。

議題5 その他

日放技公益社団法人のための代議員選挙実施調査代議員選挙方法については、福島県として会場投票方式で提出する。代議員選挙に県内からも立候補者を擁立。(日放技会員数再計算で福島県立候補者4名可)

来年度に開催される総合学術大会(青森開催)に座長の推薦提出がある(5名以内)ので、セッション明記のうえ提出する。同大会の事前登録券の割り当てが80枚くるので協力をお願いする。

日放技の会費振込が来年度から郵便振替、コンビニ振込、銀行振込も可能となる。これに合わせ県のみ会員も同様の方法とする事で承認された。

ネットワーク委員会、学術委員会に実務担当者を増やす。両委員会に各地区選出の委員のほかに、支部推薦及び委員長の推薦で数名増員し円滑な会務運営を図れるようにすることで了承された。

以上で議事終了し、17時散会した。

(お 知 ら せ) 会費納入方法の変更について

(注)福島県放射線技師会では昨年度まで会費収納はゆうちょ銀行の振り込み用紙による方法で行われてきました。(注)日本放射線技師会では来年度より会員の会費支払い時の利便性ならびに会費事務省力化のため会費収納代行業者に委託することになりました。

当会でもコンビニ支払が可能な委託収納方法を来年度より行うことにしました。

(注)日本放射線技師会に入会されている会員の方は福島県放射線技師会の会費も合算して請求されることとなります。(注)福島県放射線技師会会員のみの方上記方法による収納となりますのでご連絡いたします。

この収納方法になりますと納付書はゆうちょ銀行、コンビニにて支払が可能となり振込手数料は日本放射線技師会が負担し、銀行振替も可能ですが手数料は払込人本人が負担することになります。

なお前年度未納会費がある場合、最大5万円の会費請求をされることとなり、負担が大きくなりますので、年度毎に分割しての支払も可能と致します。必要な会員はその旨のご連絡をお願いいたします。

告 示

定款第11条及び第13条の規定に基づき、平成23・24年度役員選挙を下記により行います。

記

- 1、役員の数
会長：1名 副会長：2名
監事：2名 理事：11名以上14名以内
- 2、立候補、推薦候補届出受付開始日及び締切日
平成23年4月1日より4月29日正午まで
- 3、投票日
平成23年5月21日 平成23年度総会開催日
以上告示します。

平成23年3月1日

社団法人福島県放射線技師会
選挙管理委員会

委員長 水沼 利夫
委員 松枝 直宏
委員 菅野 修一
委員 佐藤 二郎

訃報

長年、本会の発展に貢献された
浜通り支部 寺島 健治氏は、去る
1月15日逝去されました。謹んで
ご冥福をお祈りいたしますと共に
会員の皆様に報告いたします。



会告

下記により、平成23年度社団法人福島県放射線技師会総会を開催いたします。

記

第63回(平成23年度)社団法人福島県放射線技師会総会
日 時 平成23年5月21日(土) 14時より
5月22日(日) 11時まで
会 場 いわき市「新舞子ハイツ」

プログラム

【1日目】	樋口 清孝 先生
13:30 受付開始	16:15 終了
14:00 開会	16:30 総会
14:10 各委員会、分科会及 び部会活動報告会	18:30 情報交換会
15:10 開場 一般公開講演	20:30 分科会懇話会
15:25 開演	【2日目】
演題「死亡時画像病理診断 (Ai)について」	9:00 各委員会、分科会 および部会会議 (活動方針決定)
国際医療福祉大学 保健医 療学部 放射線情報科学科	

第23回日本消化器画像診断情報研究会(福島大会)開催される

平成23年2月11日(金)、12日(土)の両日、コラッセふくしまにて第23回日本消化器画像診断情報研究会福島大会が開催されました。日本消化器画像診断情報研究会(以下、研究会)は、がん検診や消化器画像検査に関する専門的知識と技術の習得を図ることを目的に活動を行っており、中央と地方との学術的交流を深めるため地方都市での開催を基本としてきました。過去には、東京、大阪、名古屋、札幌、宮城などの大都市はもちろん倉敷、宮崎、富山、青森、鹿児島、三重などの都市でも開催しています。東北での開催は、青森・宮城に次いで3度目になります。

今回、福島で開催することになった理由は、この研究会の常任世話人をしていた大原総合病院・大類幸悦さんに本部事務局から福島開催の打診がありました。大類さんは福島県放射線技師会消化器撮影分科会の代表にもなっていたため(社)福島県放射線技師会との共催が実現しました。

平成21年9月10日に第1回実行委員会を開催し、大会までに21回を数えました。その中で、大会テーマを「消化器画像診断の現状と明日への懸け橋」と定め、様々な検査について学べる研究会となるよう企画してまいりました。主な講演内容を記します。

「肝臓のMDCT - 究極の最適化を目指して -」
兼松雅之(岐阜大学医学部付属病院)

「CTcolonographyの現状と今後の展望～医師の立場から～」森本毅(聖マリアンナ医科大学)

「CTcolonographyの現状と今後の展望～診療放射線技師の立場から～」鈴木雅裕(国立がん研究センター)

「胃 線検査におけるスクリーニングのポイント」
青柳孝行(横浜市立市民病院)

「新しい胃がん検診専門技師認定制度と検定試験」
木村俊雄(早期胃癌検診協会)

「胃がんX線診断の求め方」馬場保昌(早期胃癌検診協会)

「バリウム造影剤の特性とDR装置への対応」山本淳二(堺化学工業株式会社)

「ESD時代の胃 線検査～内視鏡検査との棲み分けは可能か?～」小澤俊文(坪井病院)

「超音波ライブデモ」&「肝の超音波診断とその画像の成り立ち」石田秀明(秋田赤十字病院)

「胆道の超音波診断」岡庭信司(飯田市立病院)

「脾の超音波診断」関口隆三(栃木県立がんセンター)

「炎症性腸疾患の動向と画像診断」高添正和(社会保険中央総合病院)

市民公開講座「がんと言われたら...最新のがん診断と治療」
鈴木牧子(リレーフォーライフ)、鷲野谷利幸(総合南東北病院)、君島伊造(北福島医療センター)

一般演題発表18題、CTcolonographyハンズオンの開催、日本消化管研究会の講演、医療機器製剤企業による展示(12社)など盛り沢山の内容となりました。

また今回、一般演題発表において、初めての試みとなる優秀賞の選考を行いました。選考基準を設け選考委員を9名選出し最優秀賞1名、優秀賞2名を決めました。厳格なる審査のもと最優秀賞者にはブロンズ像、賞状、奨励金が大会長から授与されました。受賞された3名の方々には、日頃の研究結果が認められ、発表までのご苦労を思えば、喜びもひとしおだったと思います。今回惜しくも賞を逃した方も次回東京大会にリベンジしていただきたいと思います。

市民公開講座では、一般市民の方が多数来場されました。講演者3名の方々へ市民のみなさんから矢継ぎ早に質問がなされ、座長の労をお取りいただいた穴戸文男先生(福島県立医科大学)今野広一先生(総合磐城共立病院)には、講座をまとめるのに苦慮したことと思います。我々医療従事者が思っている以上に市民の方々のがんに対する関心は高いものと実感しました。

今回の研究会には、診療放射線技師258名、臨床検査技師76名、医師4名、医療機器製剤メーカー44名、一般市民91名、合計473名の参加がありました。大会2日目



には雪も積もり、来場者が減るのではないかと危惧しましたが、沢山の方が会場へ駆けつ

けてくださいました。実行委員の一人として、これほど嬉しいことはありません。また、一年半の長きにわたり開催に向けご尽力いただきました実行委員の皆様には感謝の言葉もございません。本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。(県南 亀山欣之)

支 部 だ よ り

県 北 支 部

「CT勉強会」並びに「新年交流会」開催される

平成23年2月19日(土)福島テルサにおいて県北支部主催の「CT勉強会」が開催された。今回の勉強会のテーマは「Aquilion ONE特集」ということで3題の講演があった。はじめに、アミン株式会社の及川隆太先生より「最新サイオワークステーションの紹介」と題し、モダリティの進化や3Dワークステーションの機能向上に伴う最新のアプリケーション技術及びネットワーク技術について詳しく説明していただいた。次に東芝メディカル東北支社の新井信夫先生より「320列面検出器Aquilion ONEの可能性」について、特長的な臨床例や最新のアプリケーション、またデュアルエネルギーやAIDRなど幅広いご講演をしていただいた。最後に「Aquilion ONEの使用経験」と題し大原医療センターの角田智高さんより昨年10月から県内で初めて導入された装置についてお話ししていただいた。脳血管や冠動脈撮影法など臨床の画像も紹介され、多くの質問が交わされた。終了後には「新年交流会」が行われ、佐藤靖芳



ながら交流を深めていた。

支部長より「これからも勉強会等を企画し会員の皆様と共に支部の活動を盛り上げていきたい」と抱負を語った。出席者は歓談しながら交流を深めていた。(池田)

浜 通 支 部

「第23回日本消化器画像診断情報研究会」に参加して

先日、2月11日(金)～12日(土)と福島市コラッセふくしまにて日本消化器画像診断情報研究会が行われました。私は実行委員として前日の10日より現地に入り本大会の準備に参加しました。前日には当日の受付のテーブルや名札などあらゆる準備がなされ、メーカーによる機器搬入も行われました。しかし、この日の準備よりもこれまでの一年半に及ぶ準備が何より大変だったようです。大類大会長、亀山実行委員長を始めとした現地の実行委員の方々、大変御苦勞様でした。

さて、いよいよ当日の受付開始、しかし準備万端のはずが、あれがこれがと出てくる度に責任者を探して検討することの連続で大変ではありましたが無事に初日に乗

り切り、スタッフ一同ほっとして夕方からの親睦会へ。親睦会には全国から多くの参加があり良い親睦が図られたのではないかと思います。二日目は昨日の経験がありそれなりにスムーズに進行したが、すばらしい講演のためか時間が少しずつ伸びてしまい時間調整に追われた。

市民公開講座では多くの一般の方々の来場があり、また講演に対する一般の方々の目線での質問があり、なるほどと思えるような質問もありました。



たいと思いました。

二日間の研究会では多くの技師が日頃から一生懸命に消化器撮影に取り組んでいる様子が窺えて勉強になりました。次期東京大会にも参加したいと思いました。(村上)

「いわき地区画像研究会新年交流会」開催される

平成23年1月21日(金)クレールコート(旧内郷館)において、いわき地区画像研究会新年会が開催された。

冒頭、いわき地区画像研究会世話人代表呉羽総合病院鈴木より挨拶があり今年度の研究会での活動報告があった。この中で特に、昨年8月に行われた浜通り支部夏期学術研修会では会員のみでの研究発表になり、担当されたパネリストの皆様へ感謝の意が伝えられた。

続いて総合磐城共立病院須藤氏より浜通り支部の役員を努められ会の発展に尽力された菅波病院寺島健治氏の死去に伴い献杯が行われ、引き続き、労災病院今野氏の音頭で乾杯が行われた。しばしの歓談の後、遅れて参加された浜支部副支部長総合磐城共立病院今野氏より挨拶を頂いた。今野氏からは今後の県技師会や浜通り支部の活動予定について説明があった。



会員に参加して頂けるよう努力する所存である。(鈴木)

当日の参加者は20名ほどであり、自施設の近況から自分の趣味の話まで多岐にわたった話ができて有意義な会となったと思う。次回もより多くに

編 集 後 記

あっという間に今年も既に2ヶ月が過ぎてしまった。「ドックイヤー」という言葉がある。犬は人の7倍の速さで成長することから、1年が7年分の速さで進むような現代社会の変化の激しさを例えたものだ・・・医療に携わる私たちも時代の変化にとり残されない様、日々努力していかなばと思う。(池田)